

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	森 篤史
主な担当科目	イヤートレーニング,イヤートレーニング,サウンドクリエイト②_A,トラックメイキング①,ポピュラー作曲・編曲法①(火曜2限),ポピュラー作曲・編曲法①(木曜2限),ポピュラー作曲・編曲法②(火曜1限),メディア創作応用Ⅱ,メディア創作基礎Ⅱ,ライブ実習Ⅰ①,ライブ実習Ⅰ②,ライブ実習Ⅱ/Ⅱ①②,鍵盤ソルフェージュ①_A,鍵盤ソルフェージュ①_E,卒業ライブ,聴音・視唱ソルフェージュ②_C,聴音・視唱ソルフェージュ②_D
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	デジタルツールを活用して授業の質を向上させ、ペーパーレス化を推進する。オンラインソルフェージュ教材を見直し、より効果的な学修が可能になるよう更新を図る。これにより、学生の理解を深め、教育の質を全体的な向上を目指す。
2024年の教育に関する自己評価	デジタルツールを積極的に活用し、授業の質の向上とペーパーレス化を進めた。ソルフェージュ教材の見直しと更新を行い、学生の理解を深めることに寄与した。これにより、教育の質が全体的に向上し、学生の参加を促進する成果を得られた。しかし、さらなる教育手法の改善と学生とのコミュニケーション、特に留学生へ対応強化が必要であると認識している。
2024年のFD活動に関する自己評価	全てのFD研修会に出席している。
授業改善のために取り入れた研修内容	ソルフェージュ分科会では、引き続き各種目別に分かれて教員間での指導ノウハウを共有する機会を得た。ジャズ・ポピュラー音楽部会では、新任教員がさらに増え、教員と非常勤講師との間で密なコミュニケーションを通じて、指導ノウハウや日常の学生対応、特に留学生への適切な対応方法について深く議論し、多くの知見を共有できた。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1662

教員名:森 篤史

1)アンケート結果に対する所見

4 科目に共通して、総合評価はいずれも一定の満足度は確保されていた。特に「芸術鑑賞②」ではすべての項目で 4.0 点前後の高評価 を得ていた。

2)要望への対応・改善方策

- 芸術鑑賞①・②の方策
 - 芸術文化との出会いを提供できたという自由記述からもわかるように、引き続き「未知のジャンルへの導入」を重視したい。特に日本伝統芸能や学生発表(プレゼンテーション)の実践は好評であり、継続する。
 - 授業前後に「調べ学習」や「感想記述」を組み合わせ、単なる受動的鑑賞に終わらせず、アウトプットとの往復を引き続き意識させる。
- 芸術特別研究Ⅰ・Ⅱの方策
 - 「わかりにくい」「内容理解に難がある」という結果を受け、講義内での資料提示や説明の順序に見直しを加え、今年度対応済み。
 - プレゼンテーションや感想入力の中間報告を設け、フィードバックを行うことで、受講者が「評価されるだけでなく学びを深められる機会」となるように対策済み。

3)今後の課題

- 学生の多様な背景への対応
芸術特別研究は大人数を対象とする一方で、鑑賞経験や関心の濃淡に大きな差がある。選択授業となったため幾分差は縮まったと見受けられるが、必修の学生もまだ残っており、単位修得に向けた細やかな指導が求められる。
- 情報提供の平準化と可視化
各授業の目的・流れ・評価基準が明確に伝わっていないケースも見られた。
- ICT 活用の充実
授業の連絡、掲示は Teams、課題提出は UNIPA を活用しており、ICT が苦手な学生に対しての継続的なサポートが求められる。

以 上